患者向医薬品ガイド

2026年4月更新

ワーファリン錠0.5mg、ワーファリン錠1mg
ワーファリン錠5mg

【この薬は？】

販売名	ワーファリン錠0.5mg Warfarin Tablets 0.5mg	ワーファリン錠1mg Warfarin Tablets 1mg	ワーファリン錠5mg Warfarin Tablets 5mg
一般名	ワルファリンカリウム Warfarin Potassium		
含有量 (1錠中)	0.5mg	1mg	5mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、血液凝固阻止剤と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は、血液を固まらせる働きを抑え、血液が固まりやすくなっている状態を改善し、血管内で血液が固まって生じる疾患（血栓塞栓症）を治療または予防します。
・次の病気の人に処方されます。
血栓塞栓症（静脈血栓症、心筋梗塞症、肺塞栓症、脳塞栓症、緩徐に進行する脳血栓症等）の治療及び予防
・この薬は、体調がよくなったと自分の判断で使用することを止めたり、薬の量を加減すると、病気が悪化したり予防できないことがあります。指示どおりに使用することが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇この薬とカペシタビン（抗悪性腫瘍剤）との併用により、この薬の作用が増強し、出血を起こし、死亡に至ったとの報告があります。併用する場合には、定期的に検査を行う必要があります。

〇次の人は、この薬を使用することはできません。

・出血している人
・出血する可能性のある人
・肝臓や腎臓に重篤な障害のある人
・中枢神経系の手術または外傷後日の浅い人
・過去にワーファリン錠に含まれる成分で過敏症のあった人
・妊婦または妊娠している可能性のある人
・骨粗鬆症治療用ビタミンK_2（メナテトレノン）製剤を使用している人
・イグラチモド（抗リウマチ剤）を使用している人
・ミコナゾール（ゲル剤・注射剤・錠剤）（抗真菌剤）を使用している人

〇次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

・肝炎と診断された人
・下痢をしている人
・脂肪の吸収不全を起こしている人（胃や腸を切り取る手術を受けたことのある人）
・慢性アルコール中毒と診断された人
・うっ血性心不全と診断された人
・敗血症と診断された人
・長く続く低血圧症と診断された人
・ビタミンKを摂取している人
・悪性腫瘍のある人
・出産して間もない人
・甲状腺機能に異常がある人
・授乳中の人

〇この薬には併用してはいけない薬［骨粗鬆症治療用ビタミンK_2製剤〔メナテトレノン（グラケー）〕］、［イグラチモド（ケアラム）〔抗リウマチ剤〕］、［ミコナゾール（ゲル剤・注射剤・錠剤）（フロリードゲル経口用、フロリードF注、オラビ錠口腔用）〔抗真菌剤〕］があります。また、市販の薬を含め併用を注意すべき薬や飲食物が多数あります。（この薬の効果が強くなったり弱くなることがあります。また、併用した薬の効果が強くなることもあります。）他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

この薬を飲む錠数と回数は、血液凝固能検査（プロトロンビン時間、トロンボテスト、INR など）等の結果に基づいて医師が決めます。
決められた錠数と回数を守って使用することが重要です。
通常、小児の飲む量の目安は次のとおりです。

年齢	12 ヵ月未満	1 歳以上 15 歳未満
1 日量	体重 1kg あたり 0.16mg	体重 1kg あたり 0.04～0.10mg

●どのように飲むか？

コップ１杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して２回分を一度に飲まないでください。
気付いたらすぐに１回分を飲んでください。ただし、飲むべき時間から半日以上経過していたら、１回分を抜いて、次から規則的に飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

一度に２回分以上飲んだ場合、出血が起こる可能性がありますので、必ず医師または薬剤師に相談してください。過量使用による出血の治療薬としてビタミンＫがあります。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・この薬は、定期的な血液凝固能検査が必要です。必ず医師が指示した受診日を守ってください。
・この薬の治療中に新たに他の薬を使用したり、これまで使用していた他の薬を止める場合には、薬の効果に影響することがありますので、必ず医師や薬剤師に相談してください。
・けがをしないように注意してください。出血した場合、血が固まりにくくなっています。出血に気づいたら、出血している箇所を５～１０分間、しっかり押さえてください。血液が固まるまで時間がかかります。出血が長引く場合やけがの範囲が大きい場合は、ただちに受診してください。
・歯の治療や他の医師を受診する場合には､必ずこの薬を飲んでいることを医師、歯科医師又は薬剤師に伝えてください。
・妊娠する可能性がある人は、医師や薬剤師に、この薬が胎児や母体に影響を与える可能性があることについて説明を受けてください。
・この薬は胎児や母体に影響を与えることが知られています。妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
・授乳を避けてください。
・納豆、市販のクロレラ食品、青汁の摂取は、この薬の作用を弱めますので、避けてください。また、ビタミンＫを多く含む緑黄色野菜を大量に食べると、この薬の作用を弱めることがありますので、大量に食べることは控えてください。なお、飲食物の影響については医師または薬剤師に相談してください。
・アルコール飲料、セイヨウオトギリソウを含有する食品はこの薬の効果に影響しますので、控えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
出血 しゅっけつ	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしにくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、腹（左上腹部）の痛み、鼻血、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、便に血が混じる、粘膜からの出血、あざができる
皮膚壊死 ひふえし	皮膚が黄色～黒色に変化する、症状がある部位の感覚がなくなる
カルシフィラキシス かるしふぃらきしす	痛みを伴う皮膚の潰瘍、痛みを伴う青いあざができる
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、尿が赤みを帯びる、むくみ、体がだるい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、体がかゆくなる、むくみ、食欲不振、症状がある部位の感覚がなくなる
頭部	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然の頭痛、突然のめまい
顔面	鼻血
眼	白目が黄色くなる
口や喉	吐き気、突然の嘔吐、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血
手・足	突然片側の手足が動かしにくくなる
腹部	腹（左上腹部）の痛み
皮膚	あざができる、皮膚が黄色～黒色に変化する、痛みを伴う皮膚の潰瘍、痛みを伴う青いあざができる、皮膚が黄色くなる
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る、尿が赤みを帯びる
便	便に血が混じる
その他	粘膜からの出血

【この薬の形は？】

販売名	ワーファリン錠 0.5mg			ワーファリン錠 1mg			ワーファリン錠 5mg		
形状	錠剤（割線入り）			錠剤（割線入り）			錠剤（割線入り）		
	表	裏	側面	表	裏	側面	表	裏	側面
									
直径	7.6mm			8.1mm			8.6mm		
厚さ	2.8mm			3.1mm			3.0mm		
重さ	144mg			190mg			210mg		
色	淡黄色			白色			わずかに赤味をおびた橙色		
識別コード	Ɛ255			Ɛ256			Ɛ257		

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ワーファリン錠 0.5mg	ワーファリン錠 1mg	ワーファリン錠 5mg
有効成分	ワルファリンカリウム		
添加剤	黄色三二酸化鉄、結晶セルロース、ステアリン酸マグネシウム、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース	結晶セルロース、ステアリン酸マグネシウム、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース	黄色 5 号アルミニウムレーキ、結晶セルロース、ステアリン酸マグネシウム、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース

【その他】

●この薬の保管方法は？

・光と湿気を避けて室温（１～３０℃）で保管してください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：沢井製薬株式会社（https://www.sawai.co.jp）
お客様相談室
電話番号：０１２０-３７３-３８１
受付時間：９時～１７時
（土、日、祝日、その他当社休業日を除く）

患者向医薬品ガイド

2026年4月更新

ワーファリン顆粒0.2%

【この薬は？】

販売名	ワーファリン顆粒0.2% Warfarin Granules 0.2%
一般名	ワルファリンカリウム Warfarin Potassium
含有量 (0.5g中)	1mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、血液凝固阻止剤と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は、血液を固まらせる働きを抑え、血液が固まりやすくなっている状態を改善し、血管内で血液が固まって生じる疾患（血栓塞栓症）を治療または予防します。
・次の病気の人に処方されます。
血栓塞栓症（静脈血栓症、心筋梗塞症、肺塞栓症、脳塞栓症、緩徐に進行する脳血栓症等）の治療及び予防
・この薬は、体調がよくなったと自分の判断で使用することを止めたり、薬の量を加減すると、病気が悪化したり予防できないことがあります。指示どおりに使用することが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○この薬とカペシタビン（抗悪性腫瘍剤）との併用により、この薬の作用が増強し、出血を起こし、死亡に至ったとの報告があります。併用する場合には、定期的に検査を行う必要があります。

○次の人は、この薬を使用することはできません。

・出血している人
・出血する可能性のある人
・肝臓や腎臓に重篤な障害のある人
・中枢神経系の手術または外傷後日の浅い人
・過去にワーファリン顆粒0.2%に含まれる成分で過敏症のあった人
・妊婦または妊娠している可能性のある人
・骨粗鬆症治療用ビタミンK_2（メナテトレノン）製剤を使用している人
・イグラチモド（抗リウマチ剤）を使用している人
・ミコナゾール（ゲル剤・注射剤・錠剤）（抗真菌剤）を使用している人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

・肝炎と診断された人
・下痢をしている人
・脂肪の吸収不全を起こしている人（胃や腸を切り取る手術を受けたことのある人）
・慢性アルコール中毒と診断された人
・うっ血性心不全と診断された人
・敗血症と診断された人
・長く続く低血圧症と診断された人
・ビタミンKを摂取している人
・悪性腫瘍のある人
・出産して間もない人
・甲状腺機能に異常がある人
・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬［骨粗鬆症治療用ビタミンK_2製剤〔メナテトレノン（グラケー）〕］、［イグラチモド（ケアラム）〔抗リウマチ剤〕］、［ミコナゾール（ゲル剤・注射剤・錠剤）（フロリードゲル経口用、フロリードF注、オラビ錠口腔用）〔抗真菌剤〕］があります。また、市販の薬を含め併用を注意すべき薬や飲食物が多数あります。（この薬の効果が強くなったり弱くなることがあります。また、併用した薬の効果が強くなることもあります。）他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

この薬を飲む量と回数は、血液凝固能検査（プロトロンビン時間、トロンボテスト、INR など）等の結果に基づいて医師が決めます。
決められた量と回数を守って使用することが重要です。
通常、小児の飲む量の目安は次のとおりです。

年齢	12 ヵ月未満	1 歳以上 15 歳未満
1 日量	体重 1kg あたり 0.16mg	体重 1kg あたり 0.04～0.10mg

●どのように飲むか？

コップ１杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して２回分を一度に飲まないでください。
気付いたらすぐに１回分を飲んでください。ただし、飲むべき時間から半日以上経過していたら、１回分を抜いて、次から規則的に飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

一度に２回分以上飲んだ場合、出血が起こる可能性がありますので、必ず医師または薬剤師に相談してください。過量使用による出血の治療薬としてビタミンＫがあります。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・この薬は、定期的な血液凝固能検査が必要です。必ず医師が指示した受診日を守ってください。
・この薬の治療中に新たに他の薬を使用したり、これまで使用していた他の薬を止める場合には、薬の効果に影響することがありますので、必ず医師や薬剤師に相談してください。
・けがをしないように注意してください。出血した場合、血が固まりにくくなっています。出血に気づいたら、出血している箇所を５～１０分間、しっかり押さえてください。血液が固まるまで時間がかかります。出血が長引く場合やけがの範囲が大きい場合は、ただちに受診してください。
・歯の治療や他の医師を受診する場合には､必ずこの薬を飲んでいることを医師、歯科医師又は薬剤師に伝えてください。
・妊娠する可能性がある人は、医師や薬剤師に、この薬が胎児や母体に影響を与える可能性があることについて説明を受けてください。
・この薬は胎児や母体に影響を与えることが知られています。妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
・授乳を避けてください。
・納豆、市販のクロレラ食品、青汁の摂取は、この薬の作用を弱めますので、避けてください。また、ビタミンＫを多く含む緑黄色野菜を大量に食べると、この薬の作用を弱めることがありますので、大量に食べることは控えてください。なお、飲食物の影響については医師または薬剤師に相談してください。
・アルコール飲料、セイヨウオトギリソウを含有する食品はこの薬の効果に影響しますので、控えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
出血 しゅっけつ	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしにくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、腹（左上腹部）の痛み、鼻血、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、便に血が混じる、粘膜からの出血、あざができる
皮膚壊死 ひふえし	皮膚が黄色～黒色に変化する、症状がある部位の感覚がなくなる
カルシフィラキシス かるしふぃらきしす	痛みを伴う皮膚の潰瘍、痛みを伴う青いあざができる
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、尿が赤みを帯びる、むくみ、体がだるい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、体がかゆくなる、むくみ、食欲不振、症状がある部位の感覚がなくなる
頭部	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然の頭痛、突然のめまい
顔面	鼻血
眼	白目が黄色くなる
口や喉	吐き気、突然の嘔吐、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血
手・足	突然片側の手足が動かしにくくなる
腹部	腹（左上腹部）の痛み
皮膚	あざができる、皮膚が黄色～黒色に変化する、痛みを伴う皮膚の潰瘍、痛みを伴う青いあざができる、皮膚が黄色くなる
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る、尿が赤みを帯びる
便	便に血が混じる
その他	粘膜からの出血

【この薬の形は？】

販売名	ワーファリン顆粒 0.2%
形状	顆粒剤
色	暗赤色
識別コード	―

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ワルファリンカリウム
添加剤	軽質無水ケイ酸、酸化チタン、三二酸化鉄、タルク、乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、D-マンニトール

【その他】

●この薬の保管方法は？

・光と湿気を避けて室温（１～３０℃）で保管してください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：沢井製薬株式会社（https://www.sawai.co.jp）
お客様相談室
電話番号：０１２０-３７３-３８１
受付時間：９時～１７時
（土、日、祝日、その他当社休業日を除く）